

新しい中学校英語教科書の描く男性像

島田 洋子

はじめに

今年(2005年)中学校の家庭科や保健体育、公民の検定教科書からジェンダーという表現が消えた。創刊60周年の『世界』4月号の特集「ジェンダーフリーって何？」の巻頭記事を汐見氏は「男は日々『男』に作られる」と書き出している。「男って、そういう場面(筆者注:お互いに疲れているときに男性からお茶を入れてほしいと頼まれたときの女性の反応)での女性と男性の分担から、無意識のうちに、男像とか男女観というのをつくっていくということを言いたかったんです。幼い頃からの積み重ねで身に付くものは、相当強いですよ。大人になってからそれを変えることは至難の業と思っている。」(p.81)と続く彼の指摘を読み、改めて「男女共同参画」社会実現のカギを握る男性の意識変革は、ジェンダーフリー教育を抜きに語れないとの思いを強くした。同号の中で、細谷氏は「ジェンダーフリー」を「人間の能力や適性や役割を男女というくくりによってではなく個人に即して考えて、最適な処遇(教育)をしていこうという考え方を表示する言葉である。」(p.97)と的確に定義している。

新教育課程の下、2002年には中学で、翌3年には高校で新しい英語の教科書が使用され始めた。ジェンダーの視点からこれらの教科書の検証をする試みもいくつか行われている。しかし、それらはいずれも性差別に焦点を合わせて女性がどう扱われているかを探ろうとする試みである。筆者は自身の最近の研究で男女が対等なパートナーとして活動するためには、何よりまず男性の意識改革が必要であり、それを可能にするのは教育の力

であることを繰り返し述べている。「あらゆる分野に見られる性別役割観を払拭するためには、男女平等を志向する教育、それを通しての男女両性(とりわけ男性)の意識改革が必要である。」(神谷他, p.91)この主張は、前述の『世界』の記事を読んで確信に変わり、今回男性に焦点を当てて中学・高校の教科書を検証するることの必要性を痛感した。

本稿では、大多数の生徒たちが初めて英語に触れる中学の教科書を取りあげ、男性がどのように描かれているかを探る中で、中学の英語教育が男子生徒のジェンダー観形成にどのように影響するかを検討してみたい。

I 取りあげた教科書と登場人物

2002年度から使用されている新しい中学の教科書は全7種類であるが、その内全国で8割以上の圧倒的なシェアを占めているのは、*NEW CROWN ENGLISH SERIES* (以下NCと略す)、*NEW HORIZON English Course* (以下NHと略す)、*SUNSHINE ENGLISH COURSE* (以下Sと略す)の3シリーズ⁽²⁾である。この3シリーズの3学年分計9冊を検証の対象とする。

まず、各学年を通して設定されている登場人物の特徴を見てみよう。NCでは、健と久美、2人の日本人中学生と、トム(アメリカ人)、ムカミ(ケニア人)、メイリン(中国人)の3人の留学生が中心人物だが、それ以外にそれぞれの生徒たちの家族や教師(日本人、外国人双方)が登場する。NHでは、健(なぜかNCと同じ名前)と由美の2人の中学1年生及びオーストラリアからの留学生マークとマークの姉ベッキー夫妻(夫は日本人)、友人のデミ、ALT (Assistant Language Teacher)のグリーン先生(カナダ人女性)が主要な登場人物である。Sでは、中学1年の由紀と武を中心に、留学生のリサ(カナダ人)、リー(中国人)、マリオ(ブラジル人)の3人、それに由紀の叔母夫妻(叔父はアメリカ人)やALTのブラウン先生(アメリカ人男性)が登場する。いずれも男女1名ずつの中学生に数カ国からの留学生と外国人の英語

教師を配している。NH と S に国際結婚をしている夫婦が出てくるのも似通った設定である。このような極めてよく似た登場人物の設定(名前からして紛らわしい)そのものに、検定教科書の問題点が象徴的に現れているのだが、本稿のテーマとは外れるのでここでは取りあげず、ジェンダーの視点から教師像のみを見ることにしたい。

最近筆者が京都府下の ALT を対象に行った「英語教育とジェンダーに関するアンケート」⁽³⁾の中で、使用している教科書の男女の扱いが平等であるかをたずねる設問に、中学で教える男性 ALT が次のようなコメントを記していた。「時にアクティビティや興味がステレオタイプで予測通りのことがある(女子がフルーツを吹き、男子が車を好むなど)が、時にはそれが逆転していて新鮮な場合もある(女子が科学を好んだり、スポーツで成功したりする)。しかし、男子が女性的な活動に参加することはない。女性の医者は登場するが、男性の教師や看護師などは登場しない。教師はほとんど女性である」⁽⁴⁾。

教師は生徒にとって最も身近な職業のロールモデルである。性別に見た教師像は、教科書によってかなり異なる。NC では、1 年生の Let's Listen 1 で自己紹介をする外国人の先生、Lesson 6 'School in the USA' の中でアメリカ人の英語教師、2 年生の Let's Read 1 'A Trip to Mongolia' では日本人の教師がいずれも男性として描かれている。女性教師は例文やイラストに若干登場するが印象が薄い。1 年生の巻末単語表現のページに出てくる教師のイラストには男女両方の先生が描かれているが、校長は男性になっている。現実の性別役割の反映でもあり、生徒たちに“偉い”先生は男の先生との認識を刷り込む役割を果たすことになろう。一方、NH と S では、登場する教師はほとんど女性であり、上記 ALT の指摘が立証されている。特に NH では男性の教師は全く登場しない。

II 性別と職業

3冊の教科書の巻末には、いずれも職業を表す単語がイラストと共にリストアップされている。NCとNHは2年生、Sは3年生で、15～30の職業が取りあげられている。このうち3冊に共通して出てくる職業は、lawyer/nurse/pilot/police officerの4語のみであるが、lawyerを除き、いずれもがnurseは女性、pilotとpolice officerは男性の仕事として描いている。同じ観点で文中の登場人物の職業を見てみると、3種類9冊に共通するのは、teacher/doctor/clerkの3語であり、これらの性別は教科書によって異なっている。

9冊のいずれかに名前が出てくる85種類の職業の内、複数の教科書で取りあげられている27の仕事について、その性別を見てみよう。

男女共通の仕事	男性のみの仕事	女性のみの仕事
announcer/reporter	baseball/soccer player	flight attendant
astronaut	carpenter	nurse
barber/beautician	fire fighter	florist
clerk	musician	
doctor/dentist	pilot	
driver	police officer	
farmer	programmer	
lawyer	store keeper	
office worker	writer	
scientist		
teacher		

どの教科書も、firemanやpolicemanがfire fighterやpolice officer,

stewardess が flight attendant とジェンダーフリーな表現を紹介しながら、一方で伝統的な性別に縛られた男女別の扱いを、この性別リストは示している。男性も女性もどんな仕事にでも就けるのだと生徒たちを励ましてこそその性差別語撤廃であったはずで、現状を打破しようとするのであれば、伝統的な性別に縛られた職業観を捨て、性別を逆転させた新しい発想で男女それぞれの就労が少ない分野の仕事をこそ紹介する配慮が必要であったと思われる。ちなみに、たまたま調べたノルウェーの中学校英語の教科書⁽⁵⁾では、異なる仕事に就いている4人の若者へのインタビュー記事で、上記で男性のみの仕事にあがっている fire fighter と pilot が女性であった。

NCの2年生 Lesson 6 “Speech—‘My Dream’” は、新課程下の中学教科書の中で、ジェンダーの視点から見てもっとも望ましい教材の一つだと思うのだが、このレッスンでさえも巻末の「職業」紹介ページと合わせて見ると、上記の問題点を含んでいることに気付かされる。レッスンは、“We will have many different jobs” (たくさんのいろいろな仕事があります)と書き出されている。教師用指導書にもある通り、授業でこの一文を導入するときには、巻末に掲載された「いろいろな単語を使って言ってみよう(職業)」のページを活用することになる。しかし、いかにもステレオタイプな男女別のイラストがあふれている教材からは、男女それぞれの性別に忠実な職業観しか伝えられない。carpenter/firefighter/diplomat/lawyer/pilot/police officer/programmer 等は男性のみの仕事なのか。一方、flight attendant/interpreter/nurse 等が女性のみの仕事として描かれていては、それらの仕事を志望しようとする男子生徒はでてこないのではないだろうか。

Lesson 6 “Speech—‘My Dream’” は、健が保育士になりたいという将来の夢についてスピーチをするレッスンである。1999年の「改正男女雇用機会均等法」の施行によって、男女の性別の求人が禁止されたのを受けて導入された「保育士」という新しい呼称の職業を通して、ジェンダーと仕

事について考える材料を生徒たちに提供している。呼称が変わっても、現在保育の現場で働く男性の比率はわずか1%にしか過ぎない現実を考えるとき、このレッスンの持つ重みが良くわかる。保育士を志望する理由について、健は「子どもが好きだ」ということ以外に次のように述べている。

“Second, some parents need help. For example, my parents had a lot of things to do when I was a child. . . I want to help you and your children some day” (第2に、援助を必要としている親がいます。例えば、僕が幼かった頃、両親はしなければならぬ仕事がたくさんありました。…僕は、いつの日か、あなた方やあなた方の子どもたちを手伝いたいと思っています)

なぜ健が子どもの時、両親はそんなに忙しかったのか。保育所は、そんな忙しい親にとって、どんな役割を果たせるのか。現状はどうか。男性である健が、従来女性の仕事と考えられていた保育士になりたいと思っていることについて生徒たちの受け止め方はどうであろうか。いろいろと問題提起をして、議論できる題材である。「男性保育士」という仕事に就きたいという健の生き方を通して、生徒たちが学ぶことは多くあるだろう。このレッスンは、生徒たちが男女の区別なく自分らしく生きる中で、やりたいことを行動に移す手助けをする教材として有効に利用できるものだと思う。

Ⅲ 性別役割分担—男性の家事・育児参加

全9冊の教科書の中で、男性の家事参加の問題を正面から取りあげたレッスンは一つしか見あたらない。育児については全く触れられていない。家事や育児をしている男性の写真も一枚もない。残念ながら、大半は家事をする男性のイラストを、女性との数合わせで載せているに過ぎない印象である。イラストの大部分がなぜか料理の場面であり、夫や息子は家事をする妻や母親と対で描かれている。家事をする男性のイラスト場面をすべ

てリストアップしてみよう。

- ジャガイモの皮むきをする男子生徒
- 家庭科(homemaking)の授業でミシンを踏んだり、掃除機をかけたり、買い物をする男子生徒(以上 NC 1年)
- 料理を運ぶ妻の横でエプロン姿で食器を出している夫
- エプロン姿で調理をする父親と手伝う息子(以上 NH 1年)
- 調理をする妻と皿拭きをしている夫
- 目玉焼きをつくっている男性
- 母親にゴミ出しを頼まれ、渋々ゴミ袋を運んでいる男子生徒(以上 NH 2年)
- 料理や飲み物を息子の友人に勧める父親(NH 3年)
- 調理中の母親の横で皿洗いをする息子(S 1年)
- エプロン姿で調理をする男性
- 汚れた食器が一杯の流しの前で渋面の妻と料理をつくろうと張り切る夫
- クッキングクラブで料理をつくる男子生徒(以上 S 2年)
- 鍋料理をつくる男子生徒
- 掃除機をかける母親のそばで窓拭きをする息子
- 料理をつくる妻を手伝う夫(以上 S 3年)

NC では、1年生の巻末を除いて3年間本文中に全く家事をする男性の姿が現れない。一方、NH と S ではかなり多くの家事分担をする男性が描かれている。しかし、その数の多さとは裏腹に、「家事は女性の仕事」、授業やクラブ活動での模擬体験はともかく、家庭では男性は「手伝う人」で十分だという意識が透いて見えるリストではないだろうか。

それでは、家事分担のテーマを比較的正面から取りあげている3つのレッスンを見てみることにしよう。NH 2年生の Listening Plus 3 では、段階を追って行うリスニング活動として、中学生に対する「家事アンケート」を取りあげている。ステップ1と2では、日本の中学生を対象に「掃

除」「台所仕事」「買い物」の3つの家事への参加率をアンケートしてその結果を報告、ステップ3では、韓国と米国の中学生への同一調査の結果を日本と比較して示している。教師のちょっとした工夫次第で、生徒たちに自分自身や家族など身の回りの男性を見つめるきっかけを、このレッスンを通して与えることができよう。ここで取りあげられている3種類の家事を、部屋/風呂/トイレ/外回りの掃除、調理/セッティング/後片づけ等の台所仕事と具体的に提示して、‘Do you clean your room?’ ‘Who cooks the dinner?’などをアンケートする活動、また、ここに挙がっていない家庭での仕事、「洗濯」「ゴミ出し」「育児」などを誰が担当しているかを調査する活動等が考えられる。その中で、男性の家事分担の実態を生徒たちに知らせ、ジェンダー問題を考えさせる授業へと発展させることも可能なレッスンである。

次に、同じNH2年のUnit4 ‘Homestay in the United States’について触れておきたい。最初にホームステイのガイドブックから、「あなたは家族の一員です。だから、家事を手伝わなければなりません。」というアドバイスが載せられている。続いて、アメリカでホームステイを始めた翌日、ホストマザーが健にベッドメイキングを教えるという設定の対話が出てくる。家族全員が自分のベッドメイキングは自分でしなければならないというアメリカではごく当たり前のルールを紹介しているに過ぎないのだが、男子生徒を対話の相手に登場させて、女子への話にしなかった分、評価できるレッスンになっている。

最後に取りあげるS3年のProgram7 ‘Sharing the Housework’は、内容面で問題点を含みながらも、タイトル通り「家事分担」をテーマにしたオーラルコミュニケーションの意欲的なレッスンである。佐藤家にホームステイしている中学生のメグが見た佐藤家の家事分担についてのスピーチが題材である。佐藤家は、花屋で働く母親と高校教師の父親、中学生の和夫の3人家族。共働きでありながら、家事の主要な担い手は母親であり、父親は手伝いのみ、子どもは何も家事をしないという日本の典型的な家庭

像が描かれている。メグのスピーチを少し引用してみよう。

I don't think they are sharing the housework very well. First, Mrs. Sato usually cooks for everyone and washes the dishes. She also cleans every room in the house. She even cleans Kazuo's room. Second, Mr. Sato sometimes washes the dishes after dinner. He also takes out the garbage. Third, how about Kazuo? He doesn't do any housework. He doesn't even clean his own room. I think all the family members should share the housework. Kazuo is a member of the family, isn't he?

(佐藤さんの家では家事の分担があまり上手く行われていないと思います。まず、お母さんは普通みんなの食事を作り、食器を洗います。家中すべての部屋の掃除もお母さんがします。息子の和男君の部屋さえも、掃除するのはお母さんです。次に、お父さんは時々食後食器を洗います。ゴミ出しもします。三番目に、和男君はどうでしょうか。彼は家事を何もしません。自分の部屋の掃除さえしません。私は、家族全員が家事を分担するべきだと思います。和男君は家族の一員ですよね。)

共働きの家族を取りあげながら、家事の主要な担い手を母親であるとして描き、夫は手伝いの域を出ていなくても容認された扱いになっている。TM (Teacher's Manual)でも、家事分担をすべきなのは「和男」のみであるという指導になっている。本質的なところで、旧来の男女の役割分担意識のままに書かれたレッスンになってしまっている。家庭の仕事に関して、夫が妻と同じ責任を持つべき存在として考える視点を持ってこの題材が作られていれば、より望ましいレッスンになったと思われる。TMでは、生徒たちに30年後のそれぞれ自分の家庭での家事分担を想定したスピーチ原稿の作成が提案されている。'I think we're sharing the housework very well.' という結論の下に、夫婦と子どもで家事を理想的に分担する具体例を英語で考え、生徒たちに発表する活動を行わせたい。

おわりに

昨年からずっと机の前にピンアップしている一枚の写真がある。毎日新聞の‘ひと’欄に取りあげられた宇宙飛行士山崎直子さんの夫大地さんが長女を抱いている写真である。日本人女性2人目の宇宙飛行士になった直子さんに代わって、父子家庭を守りながらフレックスタイム制で働いてきた大地さんが退職し、しばらくは育児に専念する決断をしたいきさつが紹介されている。父子2人のはじけるような笑顔と、「これからは『主夫』一本です」というキャッチコピーが鮮烈な印象を与える。こんな写真と記事が教科書に載せられていればと、9冊の教科書を調べ終えて、改めて思った。

今回扱った9冊全89のレッスン(リーディングを含めて)の中で、ジェンダーの視点から見て印象に残ったのは、前述の2レッスン(NC2年 Lesson 6 “Speech—My Dream”とS3年 Program 7 ‘Sharing the Housework’)のみであった。職業については、男女ともに多く就く仕事が固定化されている現状を打破し、特に女性の仕事と思われている低学年教育、福祉、看護等の分野への男性の就職支援を行うようなレッスンがほしい。男子生徒がいわゆる「男らしさ」から自由になって、自己実現がはかれるように手助けするような題材があまりに少ない。性別役割分担については、男性の家事・育児参加を当然のこととして生徒たちに認識させ、男女の役割分担が変わっていない現状に対する問題意識を植え付け、考え、議論させ、男子生徒の価値観を変えていく引き金となる題材が大幅に増えてほしい。もう、性差別用語の使用回避と男女の登場回数の方に神経を使うような教科書作りは卒業したい。

「子どもたちは、入学以前において、そして入学後も家庭等において、性別役割を強調する社会慣習にさらされている」(富士谷他, p.219)のであるから、当然、「性別役割分業の問題に迫ることなく教育を行うことが、

現状を固定させる役割を果たすこと」(同上)になってしまう。ノルウェーでは、1971年に男女平等をはかる国のカリキュラムが制定され、その後「男性の家事への参加が学校教育の中で教えられるようになり、現在40代よりも若い世代では、男性の家事分担が飛躍的に増えていった。」(神谷他, p.175)男女平等の教育はすべての科目にその視点を反映させることが重要であるのは言うまでもない。英語教育もその大きな一翼を担うべきであり、それに貢献できる教科書作りこそが今問われている。

注

- (1) アンケート調査とノルウェーでの視察を基にまとめた拙著『女性の自立とエンパワーメント』参照。
- (2) 森住衛(監)齊藤栄二他, *NEW CROWN ENGLISH SERIES* ①～③, 三省堂, 2002年。
笠島準一・浅野博他, *NEW HORIZON English Course* ①～③, 東京書籍, 2002年。
島岡丘・青木昭六(監)松畑熙一他, *SUNSHINE ENGLISH COURSE* ①～③, 開隆堂, 2002年。
- (3) 調査対象者: 京都府下のALT 35名。回答者: 19名。中学, 高校での英語の授業と使用教科書について, 男女がどのように扱われているかをたずねたアンケート調査。
- (4) 回答の原文は英語。
- (5) Berit Haugnes Bromseth & Lisbeth Wigdahl. *FLIGHT TEXTBOOK 10*. J. W. Cappelens Forlag ASA. 1998. Chapter 7 'All work and no play?' pp.150-153.
- (6) 毎日新聞2004年6月28日朝刊。

参考文献

- 小崎恭弘 『男性保育士物語』 ミネルヴァ書房, 2005年。
開隆堂編集部 『*SUNSHINE ENGLISH COURSE* ③ *Teacher's Manual*』 開隆堂, 2002年。
神谷治美他 『女性の自立とエンパワーメント』 ミネルヴァ書房, 2005年。
高槻ジェンダー研究ネットワーク(編) 『中学校教科書のジェンダー・チェック』 高槻ジェンダーネットワーク, 2002年。
NEW HORIZON 編集委員会・東京書籍株式会社編集部 『*NEW HORIZON English Course* ② *Teacher's Manual*』 東京書籍, 2002年。

富士谷あつ子・伊藤公雄(監) 日本ジェンダー学会(編) 『ジェンダー学を学ぶ
人のために』 世界思想社, 2000年。
『世界』2005年4月号, 岩波書店, 2005年。